

道徳授業研究協議会

5年 題材「どうする? 「あかつき」チーム」

H29. 10. 31

1. 授業内容

- ・ 導入では、本時の資料を配付し、写真やセンテンスカードを提示しながら、読み聞かせをした。
- ・ 本資料を聞き『「金星探査機あかつき」のチームは再チャレンジをするべきでしょうか、あきらめるべきでしょうか』という主発問に対して、自分の立場と理由をワークシートに書き、発表した。
- ・ 資料の内容を整理した後、意見交換をした。最初は少人数で、その後、クラス全体で意見交流を行った。
- ・ 再チャレンジするのはなぜか、あきらめるのはなぜか、切り返し発問をしながら揺さぶりをかけていった。
- ・ 話し合いを通して、思ったことや感じたことをワークシートに記入し、発表した。



【資料提示】



【資料の内容確認】

2. 研究協議会より

(1) 資料提示から内容整理まで

- ・ 先に資料を配付しておくこと、導入の時間が短くなり、話し合いの時間をしっかりと確保することができたと思う。
- ・ 内容を整理・確認することで、児童は内容をよく理解することができた。
- ・ 「違う立場の人も考えてね」という教師の声かけで、児童は資料の内容をしっかりと読み取ることができた。
- ・ 確認は短く、話し合いは長く時間が取れるとよかった。
- ・ 難しいと思われた内容だったが、確認や資料配付をしたことにより、よく理解できた。



【ワークシート記入】

(2) 少人数での意見交流について

- ・ 2択を「あきらめる」「再チャレンジする」だけでなく、「1から再チャレンジする」にした方が話し合いがより深まったのではないだろうか。「あきらめる」という言葉のとらえ方が個々に違うので、肯定的にとらえられる言葉にした方がよい。
- ・ 立場が変わった児童もいたので、話し合いは有効であった。
- ・ グループでの意見交流は、自由な発想はよいが、ディベートになってしまったところもあったので、グループでの話し合いのルールが必要。
- ・ 4人グループはベストの人数だと思うが、横並びでなく、前後での席で行った方が話しやすい。
- ・ 話し合いの視点をはっきりさせるとより話し合いが深まったと思う。



【4人での話し合い】

(3) 全体での意見交流について

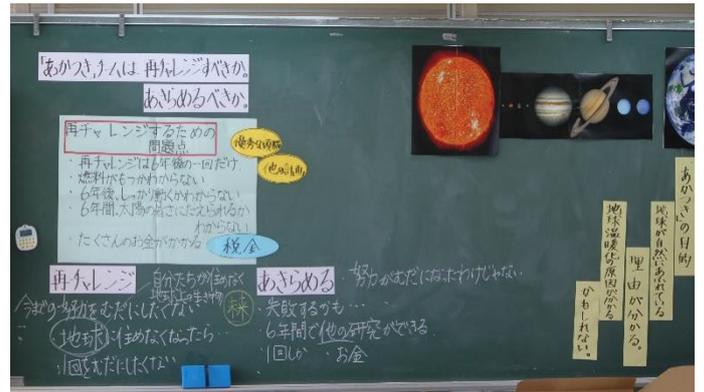
- ・ 切り返し、揺さぶりで意見が変わった児童もいたので、有効だった。
- ・ 発表するときに、変わった理由も言えると、心の変容がよく分かったと思われるので、教師がその変容の様子を引き出せるとよかった。
- ・ 児童がねらいに迫る良い意見を出したとき、教師がそれを広げていけるとよい。そうすれば

様々な意見が出てくる。

- ・ 児童の意見を単発で終わらせず、意見から意見へとつなげていけるようにしていくと児童の考えが深まる。

(4) その他（板書・ワークシートなど）

- ・ ホワイトボードと使わない場合でも、黒板に児童の意見をたくさん書けるスペースは確保したい。
- ・ 社会や理科など、他教科との連携ができていた。
- ・ 意図的指名がとても有効であった。
- ・ 授業のねらいに沿って、チャレンジすることを押していくのか、それとも2択を同じ重さで扱うのか、どうしたらよいのだろうか。



【授業の板書】

(5) その他の内容

① 内容整理の仕方について

- ・ 今回は、資料配付と読み聞かせを行ったが、今後は内容によってどうするか考える。
- ・ 読み語りや伊福小の道徳の基本だが、当然、内容によってすべてそうする必要はない。

② 話し合いの仕方について

- ・ 活発だったが、ルールが徹底していないと話し合いをしたことにより、いやな気持ちになってしまう児童がいる。「それはちがうよ」ではなく、「そんな意見もあるね」と、言い方やとらえ方が変えていけるようにしたい。シッピータイムの話し合いのルールを応用させたい。

③ グループ交流について

- ・ 4人グループを前後の席の友達と作れるように、配置を考えていく。

④ 児童の意見の広げ方について

- ・ 児童の意見の中で、何を拾って、何を広げて、話し合いを深めていくのか授業の中で見極めていけるようにしたい。切り返しについても1問1答で終わってしまいがち。柔軟な姿勢で、拾ってつなげて広げていくのは難しく、大きな課題。

⑤ ねらいについて

- ・ 今回の授業でのねらいは、「本当に大切な事は何かを考え、あきらめず自分の信じたことをやり抜く強さを養う」である。では「あきらめる」方を選んだ児童は失敗と考えるのか。
- ・ 本当に大切な事が分かっていたら、(例えば、あきらめるが、そのお金を有効利用する方法を具体的に考えるなど)「あきらめる」も、ねらいに迫っているのではないだろうか。方法はちがうけれど、道徳的価値は同じだと考える。
- ・ あきらめた場合でも、未来を大切にしないという意味ではない。あきらめるけれど、未来のこと、人のこと、温暖化のことなどを考えているのであれば、ねらいに沿っていると考えられる。
- ・ 何をその児童が大切に思っているのか、一つの意見から広げていって、今大切なものを見つければよい。
- ・ 実際に授業を進めていくとねらいがぶれることがある。ねらいをしっかりとって授業を行うことはもちろんだが、教材・資料理解をしっかりとしておくことが、ねらいがぶれない一つの方法だと言える。



【研究協議会】 →

